

リスクマネジメントグループ グループ活動記録

作成：助川（文化女子大学）

1．日時：平成 17 年 9 月 7 日（水）～ 9 日（金）夏期研究合宿（2 泊 3 日）

2．場所：ラフォーレ伊東

3．メンバー

・出席 10 名

小生方麻里（麗澤大学）、片岡真裕子（東京農業大学）、川越智之（駒澤大学）、
助川敦子（文化女子大学）、楠山直文（成城大学）、関全葵（東京家政学院大学）、
高田涼子（国立音楽大学）、土屋貴之（法政大学）、新見敏子（中央大学）、
森田敦子（東京国際大学）

4．討議内容

（1）9 月 7 日：合宿 1 日目

合宿の事前に「団塊世代が退職するリスク」を各個人で研究し、それぞれ発表した。

『平成 16 年度 大学図書館実態調査結果報告』によると、大学図書館の職員数としては、2007 年～2009 年にかけておよそ 1,800 人（臨時含む）が定年となると考えられる。

定年退職後、安い賃金での再雇用システムを考えてみては？

定年退職後の余暇の使い方として、図書館利用をすることも考えられる。受け入れる図書館側の負担・対応。

団塊世代の知識を伝承。退職者を講師として招く。

団塊世代の仕事の「暗黙知」をマニュアル化して「形式知」へ。

各館レベルでの伝承ではなく、図書館協会などで団塊世代の知識の伝承を考える。

部課長・管理職の研修プログラムなど。

人員補充 図書館から他部署への人事異動を前提として考えるかどうか。

その図書館の「生き字引」的な人、経緯を知っている人がいなくなると困る。

団塊世代が抜けるより、組織のバランスが悪くなることが問題。

団塊世代は退職後、73.4%が定年後に働く意欲があり、51.0%はその知識を活かしたいというデータ。嘱託扱いなど待遇を考えて、再雇用の考えも。

「リスクマネジメント」として考えるポイントとして、下記のことがあげられる。

団塊世代だけでなく、若い世代も少ない 継続的な問題。

団塊世代が抜けたあと、補充した人を「新しい」職種（ホームページ担当など新しいメディア関連）で活かす。

「知識の流出」よりも、単に絶対的人数が少なくなることが問題となるのでは？
シルバー人材（人材バンク）の図書館業務に特化したものを考案してみる。

グループでの討議後、パブリックサービス分科会の3グループそれぞれの中間報告を行った。リスクマネジメントグループとしての中間発表の概要は下記のとおり。

「リスクマネジメント」を考えた時に、いろいろな問題や事例が挙がったが、現在問題となっている個人情報・自然災害の2つ柱の研究にまとまりかけている。

合宿中には、総務・閲覧・整理の3つの観点から作成した、大学図書館版の「個人情報保護対策チェックシート」のチェック項目をまとめる。

また、団塊世代の退職に対するリスクを考えたが、人材育成グループの研究と絡むところも多く、パブリックサービス分科会全体としてのまとまりにつながりそうである。

中間発表後、加藤氏・他グループからのフィードバックとして、次ものがあげられた。

団塊世代の退職は、大学では定年が60歳・65歳とズレがあるので「2007年問題」としては、考えなくても良いのでは？

図書館の仕事は、技術革新が速いため、どれだけ若い人材に教えることができるかわからない。古典などは教えることができるが、技術的なものやマネジメントに関しては、古い知識やスキルではダメだ。

人的リスクが重要。図書館・教務など大学のサービス（学費を支払っている人へのサービス）を考えて。

絶対人数が減ることが重要な問題。アウトソーシングを次世代専門職として考える。

（2）9月8日：合宿2日目

閲覧・整理・総務（共通）の小グループごとに合宿前までに作成した個人情報保護対策のチェックシート・解説を持ち寄って全体で検討することとした。整理は、閲覧・総務（共通）と重複する内容のため、整理編はどちらかの内容に含むこととする。

（3）9月9日：合宿3日目

12月の研究報告大会に発表する内容と、2月にまとめる論文をどういう構成にするかを討議。自然災害については、研究が具体的に進んでいなく、最近の自然災害の事例発表も多いので「柱」として扱わずに、経過などで触れることとした。団塊世代の抜けるリスクも人材育成グループとの絡みとして触れる程度として捉える。中心は「大学図書館版の個人情報保護対策チェックシートの作成」に絞ることにし、今後は、下記のような構成で考えていくこととなった。

はじめに

ヒト・モノ・カネの3グループに分かれた経緯と、モノからリスクマネジメントを選んだ理由など。

リスクマネジメントとは

図書館における危機管理

なぜ重要なのか？（事後対応ではなく、事前に問題を防ぐために必要）

- ・ 図書館員が全体的に危機感がなさすぎる。
- ・ アウトソーシング化が進むにつれて、専任職員と同じレベルの意識の統一が難しくなってきた。
- ・ リスクを最小限で抑えるため、問題が起こった時の対処方法を考える必要がある。
- ・ 最近の事例として起こりえる問題が増えた。（自然災害・著作権問題など）
- ・ サービスの維持と向上。

研究の経過（問題事例の洗い出し・大まかな対応区分）

マニュアル化・シミュレーション・チェックリスト・団塊

公共図書館ではなく、大学図書館に特化したものへ

個人情報保護、自然災害

- ・ 図書館員1人1人が知らないといけない
- ・ マニュアルでなく、何が問題になるか提起
- ・ プライバシーと個人情報保護

チェックシート

『こんなときどうするの？』など既に発行されているものとは別に、大学図書館向けのバージョンを作成。文章ではなく、チェックシートという形式にした。

- ・ 見方・使い方
- ・ リスト
- ・ 解説

おわりに

5. その他

9月25日までに、研究分科会報告大会用のグループの研究要旨を決めるため、合宿後にメール連絡により決定する。

以上